

# 小田原電力、はじまります！

神奈川初！

みんな  
を  
自然  
と  
エネルギー  
で  
つなぐ

自然  
の力と共に

エネルギー  
を創り出す

一口  
10万円

自然エネルギーで未来を掘り起こせ！  
ほうとくソーラー市民ファンド

ほうとくエネルギー株式会社

志澤昌彦

1. 立ち上げ期（協議会）
2. 事業スタート（会社設立）

# 立ち上げ時のポイント

- 社会的な意義づけ
- ステークホルダーと役割分担
- バックキャストイング

# 東日本大震災の影響

平成23年3月11日 東日本大震災の発生

## 計画停電の実施

- ◆ 市民生活、産業が大打撃を受けた。
- ◆ 観光客数が大幅に落ち込んだ。

## 福島第一原発事故の発生

- ◆ 地域ブランドである「足柄茶」から放射性セシウムが検出され、出荷停止に。
- ◆ 市民生活にも大きな不安。

- エネルギーの集中生産体制の脆弱性を再認識
- 再生可能エネルギーを中心とした「エネルギーの地域自給」は、不可避の課題との強い認識

## 3.11～今

- 2011年3月 東日本大震災、小田原市でも計画停電
- 2011年7月 小田原市長のエネルギーに関する公開対談
- 2011年8月 小田原市 まちづくり学校
- 2011年11月 環境省「再生可能エネルギー地域推進体制構築支援事業」の全国7都市の1つに小田原市が採択
- 2011年12月 「小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会」  
(地元企業、地域金融機関、学識経験者、関係団体・行政)
- 短期間で事業化が可能な太陽光発電から検討を開始
- 小水力発電等の他の再生可能エネルギーの検討にも着手

# 小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

役職	氏名	所属
会長	鈴木 博晶	無尽蔵プロジェクト 環境シティ コーディネーター
コーディネーター	志澤 昌彦	株式会社ニッショー 代表取締役
コーディネーター	鈴木 大介	株式会社小田原衛生工業 代表取締役
委員	飯田 智夏	さがみ信用金庫 総合企画部 部次長
委員	大嵐 啓介	株式会社ダイナシティ 代表取締役
委員	鈴木 悌介	小田原箱根商工会議所 会頭
委員	鈴木 伸幸	F M小田原株式会社 放送局長
委員	西山 敏樹	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任准教授
委員	原 正樹	小田原ガス株式会社 代表取締役社長
委員	古川 晴基	新陽冷熱工業株式会社 代表取締役
委員	蓑宮 武夫	おだわらスマートシティプロジェクト 会長
委員	山田 健司	神奈川県 産業労働局 エネルギー部 地域エネルギー課長
委員	和田 伸二	小田原市 環境部長

# 協議会の立ち上げと検討体制・内容

## 基本的な方向性

### ①創エネ

- 太陽光発電（メガソーラー、屋根貸し…）
- 小水力発電、バイオマス発電など

### ②省エネ

- 公共施設の省エネ化
- 全市的な節電、グリーンカーテン、ごみの減量…

### ③みんなのエネルギー

- 地域資源を地域が主体となって活用する
- 市民の幅広い参加（市民出資など）
- 防災対策などの地域貢献
- 地域経済の活性化（地域物産でのリターンなど）

# 協議会 体制図

役割：各種再生可能エネルギーの導入促進事業スキームの策定

事業化検討チーム：専門的な調査・検討

太陽光発電事業化検討チーム

小水力発電事業化検討チーム

〇〇〇〇〇事業化検討チーム

意見交換

検討状況報告

市民・事業者との  
市民意見交換会

事務局 小田原市

# 協議会の活動内容

# ① 先進事例の研究

長野県(飯田市)への視察



山梨県(都留市・北杜市)への視察



# ②事業の仕組みの立案



「太陽光発電事業化検討チーム会議」の様子

# ③現地調査



検討チーム委員による現地調査の様子

# ④市民意見交換会の開催



1. 立ち上げ期(協議会)

2. 事業スタート(会社設立)

# 2012年12月11日 @小田原 ほうとくエネルギー株式会社が誕生

(2013/11増資)

- 地元企業24社が出資 →38社
- 資本金3,400万円 →5,800万円

## ➤ 会社理念

- ・将来世代によりよい環境を残していくための取組
- ・地域社会に貢献できるような取組
- ・地域の志ある市民、事業者が幅広く参加する取組
- ・地域社会に根ざした企業として、透明性の高い経営

## ➤ 事業内容

- ・市民参加による再生可能エネルギー等による発電事業・省エネ事業
- ・エネルギーに関するコンサルタント及び調査研究業務
- ・エネルギーについての研修会やセミナー等の企画運営
- ・自然エネルギーの普及促進に関する業務 等



所在地:小田原市久野

現 状:公共建設発生土指定受入地

面 積:18,000m<sup>2</sup>

発電量:984kw

パネル枚数:4,000枚



仮)小田原メガソーラー市民発電所



## 環境貢献換算

✓戸建太陽光 : 130戸分

✓森林 : 92ha (城址公園の8倍)

仮)小田原メガソーラー市民発電所

# 小田原市 太陽光発電屋根貸し事業

- 小田原市が、平成25年4月に「太陽光発電屋根貸し事業」を公募し、ほうとくエネルギーが交渉権者に決定。
- 公募要件
  - (1)小田原市内に存する事業者に限定
  - (2)使用料は事業者の提案による →100円/m<sup>2</sup>
  - (3)小学校2校を含む4施設 →50kw×2校+20kw×1施設
  - (4)審査基準：事業計画の適正性、事業者の健全性、  
地域貢献度、市民参加、停電時の電気の無償使用



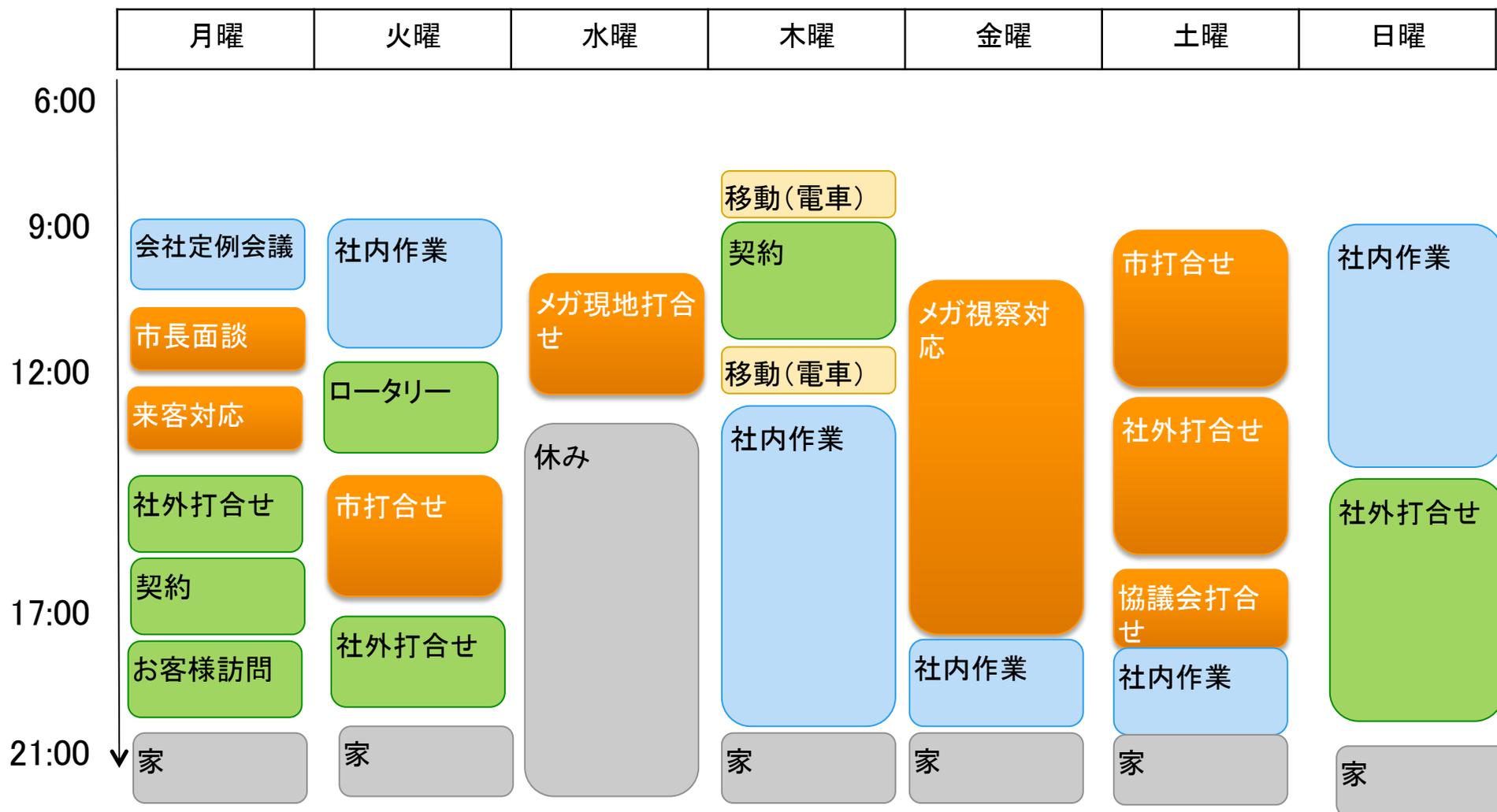
# 事業スタートにおける課題

- 事業採算の壁
- 資金調達の壁
- 地域還元との矛盾
- 行政との関係

# ほうとくエネルギーとは？

- 至 誠 → 地球視点のビジョン
- 勤 労 → 事業を着実に進める
- 分 度 → 本当に必要なのか
- 推 譲 → 未来へつなげる

# 一週間のスケジュールイメージ(ほうとくエネルギー志澤)



凡例: 中心的業務 (緑) 準備・移動 (黄) 内部会議等 (青) プライベート (灰) ほうとくエネルギー (オレンジ)